

# 母校近況

校舎改築から5年経ちました。総会を機会に訪ねてみませんか。



上: 体育棟への通路  
左: 正門と楠  
下: 中央ホール



左: 視聴覚室「黒菱ホール」: 同窓会定期総会会場  
下: 体育館



下: 校舎廊下



## 「2013年度定期総会・懇親会」、母校で開催。

- 日時：2013年8月24日(土) 定期総会13:00～／懇親会14:00～
- 総会会場：母校4階視聴覚室「黒菱ホール」
- 懇親会会場：母校1階カフェテリア（石吹OBと現役生とのコラボ演奏などを予定）
- 懇親会への参加費：1,000円(61～65期生は無料)

《懇親会からの参加も歓迎です。ご家族、同期を誘って母校をお訪ねください。》

同窓会では若い世代の絆を応援します。61期より若い方が懇親会出席の後に同期会を開催の場合、同窓会から補助をしますのでご連絡ください。20名以上の同期会に2万円補助いたします。



都立石神井高校  
同窓会広報誌

「きずな」  
第62号  
2013年7月発行

もくじ

母校近況、定期総会・懇親会のご案内……………表紙	P 1
ご挨拶……………	P 2
新会員（65期）幹事紹介、65期卒業生答辞……………	P 4
投稿……………	P 6
同窓生のそれから……………	P 9

総会議案資料……………	P 12
同期会、部活OBLOG会……………	P 16
事務局便り、お知らせ、教職員異動……………	P 19
進路・部活近況、編集後記……………裏表紙	P 20

# 進学実績と体力 セットで上昇 校長 竹内 秀一



昨年度は、「進化する伝統校」というスローガンを掲げて取り組んできた重点支援校の最終年度でしたが、石神井高校は、文武両面でめざましい成果をあげたと自負しています。

最大の目標であった進学実績については、かつての栄華にはほど遠いにしても、現役で国公立大学への進学者が3名、学習院、明大、青学、立教、中央、法政のいわゆる「GMARCH」校への進学者数が23年度の5人から昨年度は24人に大幅に増えるなど、「文」の分野で昨年度を大幅に超える成果を残すことができました。

また、体力に代表される「武」の分野においては「子供の体力向上推進優秀校」の表彰を受けました。こ

れは、都立学校291校からたった11校だけが選ばれたもので、本校の体力テストの結果が全学年で全国平均を上回り、とくに学年が進むにつれて体力も向上していること、運動部の活動が活発で入部率も高いこと、体育祭の内容改善が進められていること、などが高く評価された結果です。実際、石神井高校では、水泳や陸上競技などの授業でも見学者がほとんどいなく、元気な生徒が集まってきています。今年度は、教育委員会から「部活動推進指定校」に加えて「スポーツ教育推進校」にも指定されました。

これらの成果を踏まえ、25年度入学生からは「制服導入」と「頭髪の染色・脱色禁止」を全面的に打ち出し、学習にも部活動にも積極的に取り組む石神井高校本来の姿が築けるよう、生徒・教員が一丸となって取り組んでいく所存です。

## 「石神井ニュースレター」の発行を通して 副校長 榎原 爾くわはら ちかし



第68回生の入学式を終えてホッとしているところです。この68回生の入試に関して、少々心配なことがありました。石神井高校は今年度から「新たなステージ」へと進みます。その元年に当たる今年度の入試で倍率が

下がるのではないかとという心配でした。

本校は今年度の入学生から標準服の制服化と頭髪指導の強化に取り組むことにしていました。そのため、本校の「自由」にあこがれて受験していた中学生の層が他校へ流れるのではないかと予想されたからです。したがって、今年度に向けた募集対策はこれまで以上に重要でした。

副校長の私にも、素晴らしい生徒の活動を外部に向けてどんどん発信する責任があります。そこで、手掛けたことが「石神井ニュースレター」の発行でした。募集対策用の学校便りです。ホームページにアップしてありますのでご覧ください。

最初は、夏季休業中の学校見学会や講習会の様子など、どこでも行われているものを紹介していました。しかし、学校内の様々な活動をよく調べてみると、

あまり知られていない、でもとても特徴的で素晴らしい活動がたくさんありました。「石神井高校の再発見」でした。その中のいくつか紹介します。

- 高大連携事業で、半年間「成蹊大学」に通い続け、大学の講義を受けていた女子生徒が2名いました。
- 特別支援学校や福祉施設に、たびたびボランティアに出かけていた部活動がありました。
- 土曜日の午後に3年生の保護者に対し大学受験についてアドバイスする卒業生がいました。
- 3年生の教室には生徒を励ます掲示がありました。
- P T A主催の癒しのジャズ演奏会がありました。……。

すべては紹介できませんでしたが、石神井高校のPRにつなげられたと思います。今年度は、1学期から「石神井ニュースレター」を発行していくつもりです。

さて、心配した入試倍率ですが、昨年度より若干下がりにはしましたが、石神井高校の様々な取り組みが評価されて、石神井高校に期待して入学してくれた生徒がたくさんいます。生徒たちの期待に応えられるよう学校全体として、これからのステージを築き上げていきたいと思っています。

## ソフト面への取り組みも模索中 経営企画室長 中村 恭子



本校は広大なグラウンド、最新の設備が整った視聴覚室など、施設面では他の都立学校に比べ恵まれた環境にあります。着任一年目の昨年は、この充実した施設・設備を如何に維持管理し、より一層安全・快適な教育環境の充実を図っていくかを第一に考えて取り組んでき

ました。

しかし、本校の教育目標の実現に向け、先生方と連携して多様な方策に取り組むには、施設というハード面のほか、様々な分野にも積極的に関わっていく必要があります。今年度は、伝統ある石神井高校の教育目標実現に向けて、経営企画室としてどのように学校経営計画に参画していくか、ソフト面について日々模索しているところです。

## みなさんが参加活性化する同窓会へ 同窓会会長 大久保 利一



同窓会は本年3月に65回卒業生279名を新たにメンバーに加えました。この数年、卒業式に参列させていただき、昨年からは会長として挨拶をさせていただいています。今年も卒業式は粛々と行われて、卒業生からは新たな門出として相応しい立派な挨拶も聞くことが出来ました。又、進学についても、確実に良くなってきているとの報告がございました。

4月には、3年後には68回生となる新しい制服に身を包んだ新入生が、入学式で新たな抱負を述べてくれています。

同窓会はこのように次々と繋がっていくことによって、その体制が維持されていきますが、その主な存在意義は、在校生と卒業生である同窓会員のあいだの絆をつないでいくことです。例えば、これまで同窓会員の皆さまにご協力いただいた教育支援基金によって昨年度はテントの購入や夜間照明の電球の交換などを行い、在校生の部活や体育祭を支援しました。又、7人制ラグビー大会への参加支援なども合わせて実施しています。

同窓生同士の活動にはかねてから実施していますが、同期会や同級会への支援もさせていただいていますので、これらについてはHPを通じて事務局にご連絡ください。

一方では、都立高校の同窓会間の情報交換を促進する、連絡協議会を立ち上げ、同窓会に共通する課題に関する情報の交換により、都立高校の同窓会をより一層充実させるための活動も進めています。

これからの同窓会活動の活性化に向けて、皆様のご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。



ロシア、モスクワのボリショイ劇場前にて

# ようこそ同窓会へ。新会員65回生を招いて



去る6月27日、今年の3月に石神井高校を卒業して新たに同窓会の一員となった新同窓会員の代表8名を「石神井倶楽部」

が置かれている青山の「レストランあおしま」に招いて懇談会が開催されました。同窓会からは大久保会長を始め5名の役員が参加しました。

役員は「あおしま」自慢のシチリアワインを楽しみながらの懇談でしたが、新会員は残念ながら全員未成年のためソフトドリンクしか飲めず、最初は遠慮がちな役員でしたがワインで勢いづいてからは久しぶりの若者との会話もスムーズになり2時間を超す食事が瞬く間に過ぎ去りました。新会員は卒業式で見た時の気取った様子とは大違いで元気あふれる姿を見せてくれました。

暫くは学生、社会人として忙しい時期が続くでし

ようが常に石神井高校卒業生であることを頭の片隅に置き、いずれ同窓会の主力として活躍してくれるものと期待しています。その頃にはもちろんワイングラスを片手に持って・・・



8名の65回生と共に（前列左から：上野役員、大久保会長、板谷副会長、勝見副会長、最後列：広瀬役員

## 「答辞」を聞いて当時を想う・・・

同窓会役員に名を連ねているために卒業式に呼ばれた。受付でもらったりポンを付けて来賓席に座ると自らの卒業式の時が思い出された。あの頃、来賓席に座っている人たちとはどんな人たちなのだろうかと考えていた。今になれば何のことはない、家に居て古女房と顔を突き合わせていても仕方ないから久しぶりに母校の様子でも見てくるかと、出掛けてきただけである。半世紀の年月が見事に当時の疑問に答えを出してくれた。

卒業生が入場してくる。まず驚かされるのが服装である。今や、男は学生服、女子は制服、という時代ではないのである。男は入社式かと思うようなスーツ姿が多い中、袴姿も多い。女子は綺麗なドレス姿もいる。一瞬“きゃりーぱみゅぱみゅ”が登場したかと思ふばかりの異色の女子もいた。

卒業生代表の答辞が始まった。真面目そうな好青年である。哲学者カントの言葉を引きながら当校の伝統である「自由と自立」に言及。個性豊かな仲間との出会いを懐かしみながらの、“生徒に負けず劣

### 高校65期卒業式に出席して／同窓会役員会

らず個性的な先生方・・・”という言葉に、思わず会場の反対側に座る先生方の中に豊かな個性を見つけようと視線を送ったが残念ながらド派手な衣装を纏ったり、モヒカン刈り姿の先生などはおらず、この日だけは皆澄ました顔で座っていた。

答辞が進む中、“僕が所属していた茶道部で”という言葉に思わず座っていた椅子からずり落ちそうになった。我々の頃には男子生徒が茶道部に所属する“自由”はなかった。そうするにはかなりの覚悟と犠牲が伴ったはずである。でも良く考えればそれは謂れのない偏見である。

茶道部に所属し、卒業式には答辞を読む、立派に「自由と自立」を身に着けた頼もしい後輩に多くのことを教えられ、古女房からの自由と自立すら覚束ない我が身を省みつつ残り少なくなった自らの人生に想いを馳せながら、古女房の待つ家への帰路についた。

なお、卒業生代表の答辞全文はWeb“きずな”に掲載されています。（上野記）

## 各期幹事をまとめる新しい幹事長と副幹事長が決まりました。

高校25回の高尾宏一さんが幹事長に、荒川英彦さんが副幹事長に、お二人とも快く引き受けてくださいました。2012年3月各期幹事による幹事会を召集して以来、その後の活動が進まずにいまし

たが、今後は、新しい幹事会を一緒に作っていきたいと思っています。まずは、幹事会の名簿を整理しますので、幹事が不明な期の皆さん、協力してください。活発な活動の輪を広げていきましょう！

## 日経225で、石神井が「社長の出身高校ランキング」の第4位に!

3月24日付「サンデー毎日」の「日経225社長の出身高校ランキング」に石神井高校が堂々第4位にランキングされました。なお、日経225は、日本経済新聞社が優良企業225社を選択した権威あるランキングです。ちなみに、ランキング上位は社長6人の麻布高校、次いで4人の慶応高校、修猷館高校、そして堂々3人の石神井高校、新宿高校と続きます。

でした。なお、6月に染谷社長は相談役に、稲村社長は会長に就任されました。

日経225	高校名	人数
1	◎麻布(東京)	6
2	◎慶応義塾(神奈川)	4
	修猷館(福岡)	4
4	石神井(東京)	3
	新宿(東京)	3
	△筑波大付駒場(東京)	2
	小山台(東京)	2
	戸山(東京)	2
	日比谷(東京)	2

サンデー毎日記事より →

その3人の石神井出身の社長ですが、サンデー毎日編集部にお問い合わせした結果、キックマンの染谷光男社長（高校11回・写真左）、明電舎の稲村純三社長（高校19回・同中）、NK S Jホールディングス・損害保険ジャパンの櫻田謙悟社長（高校26回・同右）



## 小冊子「清水先生をしのんで」



石神井高校の保健体育の教師を長く勤められ（昭32年9月～46年3月）、かつバスケットボール部の顧問としてご活躍された清水昭次先生が平成10年7月にお亡くなりになりましたが、その先生を偲んでバスケットボール部OB会が「清水先生をしのんで」という小冊子を2年後（平成12年7月）刊行しました。

清水先生の奥様からの文章もいただき、多くのOB OGの言葉と若き日の写真やイラストが満載。心こもった追悼集です。

追悼集に追悼文を寄せられた方々

- ◇清水徳子様(奥様) ◇坂上季男様(友人代表)
- ◇川島正男様(元顧問代表)
- ◇12期から25期までのバスケット部OB・OG諸氏



／投 稿／

# 坊城先生と三島由紀夫

岡本逸史（高20回）

始業式か何かで全校生徒が体育館に集合した時、当時の教頭先生である坊城俊民先生が、演壇に立たれました。

私達生徒は、学校生活全般に関する注意か何かを先生が話されると思っていました。すると突然「シーラカンス～」と坊城先生が歌を歌い始めました。

余りに唐突であり、しかも場違いな雰囲気の中で、初めて聞いた特殊な言い回しの歌に、一同全員がびっくりしたものです。強烈な印象が残りました。その歌は、宮中の歌会始講師（こうじ）であった坊城先生が、その年の歌会始に際して詠まれたものでした。

シーラカンスとは、人間が誕生する遙か以前の太古の時代に生息していた古代魚で、すでに絶滅したと思われていました。それがどういうわけか、20世紀初頭に深海で生き延びていたのを発見され、生きている化石と呼ばれているものです。太古の時代に多くの仲間と共に繁栄していたのが、殆どの仲間が絶滅してしまった後に生き永らえているのですから、悲しく孤独な存在とも言えます。歌会始のお題は「魚（うお）」でした。

高校を卒業してから、私は坊城先生のこともしーラカンスのことまで忘れていました。それが再び脳裡に蘇ったのは、10年ほど経った頃のことでした。私は暇つぶしに、あるアメリカ人日本文学研究者が書いた三島由紀夫伝を読んでいました。そこに坊城先生に関する記述があることを発見した時は驚きました。

坊城家は平安・鎌倉時代に遡る公家の名家で、

昇殿を許された堂上家でした。明治維新後は華族（伯爵家）として名門中の名門であり、宮中行事にも深く関わる家でした。

華族の子弟は学習院に学ぶ習慣がありましたが、坊城先生も東大に入学する前は学習院に通っていました。坊城先生が高等科の時に、三島由紀夫は中等科に在籍していました。坊城先生は文芸部委員として校友会誌を編集していた関係から、三島由紀夫と知り合いその文学的才能に驚きます。坊城先生は、三島由紀夫の才能を最初に発見した人という意見もあります。三島の短編「詩を書く少年」の文芸部の先輩Rは、坊城先生がモデルとされています。

その後、三島由紀夫は市ヶ谷の自衛隊駐屯地で割腹自殺をします。坊城先生はその死について記しています。

「三島由紀夫の最期は、私にとって、みずからが生きるみちの困難さを、思いしらされるものがあった。」

これと殆ど同じ時期に、坊城先生は知人に次のように書き送っています。

「僕は知っている。自分の無力を。そうして、押しつぶされてしまいそうな、無力を。何とかして、押しつぶされないように、もがいている。五十を超えて、人生がこんなに苦しいとは、また、迷いがますますひどくなるものとは、想像もしなかった。このごろは自分の弱さだけを意識する。」

坊城先生は、奥多摩の病院で長い昏睡から醒めないまま平成2年4月6日に永眠なされました。享年73。お墓は谷中霊園の静かな一画にあります。



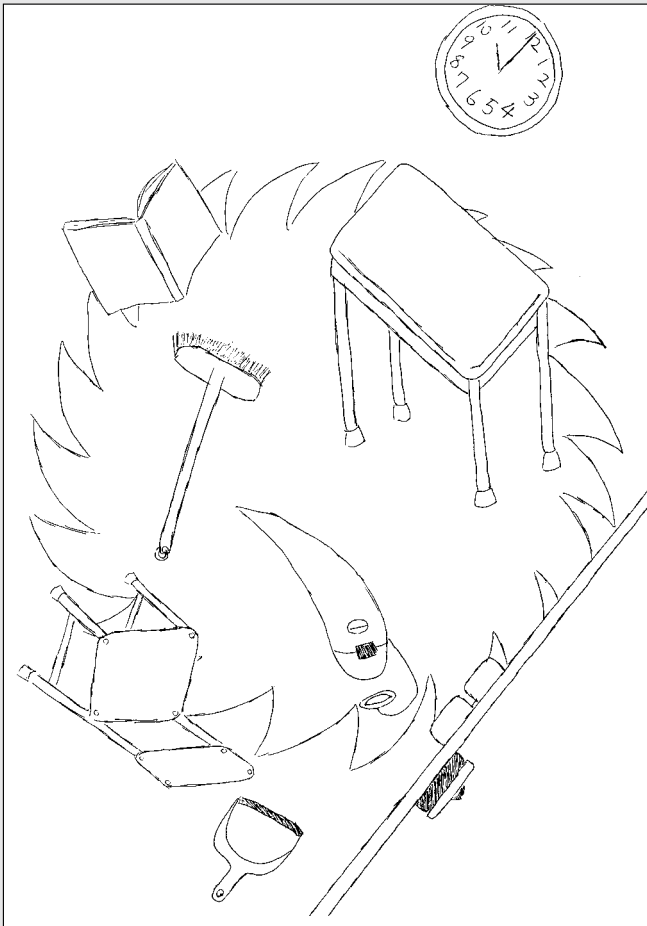
前列左から6人目：坊城先生

※20期（昭和43年卒）卒業アルバムより

/投 稿/

## 母校 「漫画研究部」からも 投稿を頂きました

現役生の作品『学校生活』



現役生の作品『未来』

石神井高校漫画研究部では、「新紀元」という名の部誌を発行したりイラストを描いたり、部員同士語り合っています。部誌名はもう何十年も続いている伝統的な名前です。(年号的にはいつの間にか21世紀をもう何年も過ぎているのにね。)

漫画の歴史はクールジャパンの一部となり、イラストを描く人が増えました。ちょっとしたイラストから本格的に描く生徒もいます。文化祭には展示をしますのので是非漫画研究部においでください。

漫画研究部顧問  
谷本友子・大出陽子

／投稿／

# 高校時代の遠足の思い出

上野 俊彦（高17回）

学年ごとに二回ずつあった遠足は楽しみだった。授業が無いというのはもちろん楽しいのだが、特にそれがバス旅行だと男子生徒にとってはどんなバスガイドと出会えるか、という別の楽しみがあった。「バスガイド」を広辞苑で引くと“観光バスで、観光の案内をしたり、乗客の世話をする乗務員”とある。だが、男子生徒にとっては当然それ以上の期待があった。何と云っても、あの吉永小百合や松原千恵子などがバスガイドを演じていた時代だったのだから。あの吉永小百合や松原千恵子に“お世話”されてしまうかもしれないのである。あんなバスガイドが自分のバスの担当になればお世話されるどころか喜んでこちらからお世話してしまうのに・・・、などとあらぬ妄想を膨らませながら毎回遠足を楽しみにしながら迎えるのである。その年もバス旅行となり、皆ワクワクしながら

当日を迎えた。・・・が、結果は残念なものであった。もちろん、統計的に言っても、経験から判断しても、その年だけが特別な年になる確率は宝くじに当たるより遥かに小さいことは誰でも知っているはずなのだが17、18歳の男子にとって、芽生え始めたどこから湧き上がってくるのかも定まらぬ妙な肉体的興奮がそんな確率などは無視してしまうのだった。

皆一様にごっかりした雰囲気の中で最初の休憩所に止まり、バスから離れて外に出た時のことである。S君が今し方降りたバスの方を振り返り、バスの横に書かれた文字を見て叫んだ。

「見ろよ、これじゃ仕方ねえや！バスの横っ腹にまで堂々と書いてあるぜ、“ブス”だってよ」  
見るとそこには“〇〇BUS”の社名が大きく書かれていた。

## 「都立高校同窓会連絡協議会（通称：同窓会の輪）」状況

同窓会会長：大久保 利一

数年前に近隣の大泉、井草、豊多摩、石神井の同窓会役員が集まって、同窓会の抱える共通の課題を議論する場を設けようということになりました。これに賛同の意をお示し頂いた他の都立高校同窓会の方々への参加を得て、年2回ほどの割合で打合せを続けてきました。昨年度は新宿、戸山、国立などの各校が加わり12校が恒常的に参加して、共通の課題を議論しています。

同窓会の課題はそれぞれの同窓会の運用環境によって千差万別ではありますが、議論を重ねていくことによって、共通の課題が浮かび上がってきました。

共通課題としては、

- ・会費納入率向上に対する対策
- ・名簿の発行と「母さん助けて詐欺」対策

・新しい情報発信ツールとしてのHPのセキュリティ対策

の三点に整理されてきました。これらの課題は現在の参加校ばかりでなく他の高校でも共通の課題であろうとの認識の下、参加校拡大の呼びかけが必要との話も出てきました。

このため名称を標記のように定め、当校が中心となって規約を作成しました。

来年度は更に議論を重ね、共通の課題を他校同窓会での解決事例などを参考に議論を進めて行くことを目指しております。これらの課題の解決のための妙案をお持ちの方、または心体いずれかの面でご協力いただける方は是非、HPの事務局宛にご連絡ください。



/同窓生のそれから/

楠 穰 (高校13回)  
国際航業(株)調査役

## 鉄道土木がやりがい、生きがいのJRマン

旧国鉄(現JR)時代、国鉄ストの最前線で変わった武勇伝があるそうですね。

「機動隊のゴボウ抜きに対して組合員はスクラム組んで阻止していましたが、突然、背後の機動隊員から羽交い締めにあって、ボクが引き抜かれてしまいました。



仲間は『楠が拉致された』と騒いでいました。ところが、物陰に移動した機動隊員が『楠、無茶するなよ』というではありませんか。顔を見たらなんと石神井の柔道部の先輩でした。高校の先輩とこんな所でこんなタイミングで出会うとはビックリでした。』

東日本大地震では真っ先に現地に駆けつけましたね。

「中越地震や中越沖地震でも、ボクが造った軌道走行用台車があれば、道路を走っているクレーン車やミキサー車などの車両が線路の上を自分で走ることができます。この台車を使うことで、災害復旧などに掛る時間を大幅に短縮することができました。そして、今回の『東北大震災』が発生した時も、新幹線の電柱が線路の上に倒れていて、工事用車両も入れない状態でしたので、僕の出番です。早速、6台の台車と共にガソリンを満タンに食糧持参で仙台に飛びました。

『台車』というのはラフタークレーンと呼ばれる走行、旋回、吊り上げなどの動作を行う一般道路走行用クレーン車の自分の車輪の動力でレールの上を走らせ、

線路上で列車の走行を阻害している障害物を除去する特殊台車です。軌道走行専用クレーン車を一台造ると何億円も掛るので、一般車両を使うことで何倍も安く造ることができ重宝されているわけです。この台車のお蔭で、東北新幹線は約1カ月で復旧できました。」



駅のゴミ再利用法も開発しましたね。

「列車や駅が日々出すゴミは多種多様で量も半端じゃありません。それを産業廃棄物として出している時は、東京都に相当の額を支払っていました。この廃棄物を削減するために、再利用、再資源化を検討して、海外の状況を調査するためヨーロッパにも行きました。当時ドイツでは5分別、6分別に取り組んでいました。

そこで、我々は駅のごみ箱を漁って、ゴミの種類、量などを調査し、3分別システムに辿りついたわけです。お客様に分別を手伝ってもらう発想もこの時に生まれたものです。当時、このプロジェクトのリーダーを務めていたのが、後にりそな銀行の会長に就任する細谷英二さんでした。細谷さんはりそな銀行では、お客様に椅子を出したことで有名になった方ですが、実はこの細谷さんにゴミの3分別法について特許申請を提案したことがありました。ところが細谷さんは、『国のためになることで特許は獲るな。皆に公開した方がいい』と言われ、流石大物は違うなと納得したものです。」

海外での経験が豊富ですね。  
「電気、水道、ガスもなく、サソリ、ムカデ、ガラガラ蛇がうようよいるボリビアのジャングル地帯でのGPSを使った測量や、どこにトンネルを掘るのか、どこに橋を懸けるのかなど、ルート選定するため登山家か探検家のような生活していました。

線路の上など、ガラガラ蛇が結構いるのですが、現地人は踏まない限り、襲わないと言っているし、医者は500km離れてるし、噛まれても神の御心があれば助かるとか言っており、人生観が変わってしまいました。その他、マレーシアでも円借款事業のルート選定の仕事にも従事しました。国内では、リニアモーターの東京・甲府間のルート選定の地質調査を5年間やってみました。会社から給料もらって毎日、山登り、沢登りしているような気分でした。まだ現役で鉄道土木の技術屋やっていますが、皆が困っている事案が回ってくることで多く、それと取り組むのが楽しみという生活です。」

(取材：高13回生 Y.N.)

／同窓生のそれから／

中村 弘道 (高校13回)

(株)中村弘道・都市建築計画設計研究所 代表

## 建築家として東京都庁舎を設計

昭和36年石神井高校を卒業し、東京理科大3年から建築家を目指し、丹下事務所で東京都庁舎の設計に携わるようになった。今回、「きずな」編集部から都庁舎設計にまつわる記事掲載の依頼



があり、石神井時代の思い出、建築家としての思い、世界的な建築家・丹下健三先生との運命的な出会い、それ

までの紆余曲折など全て省いて筆を進めたい。

丹下事務所は、給料は安く、残業代はない。正月休みもないから不平不満も当然あったが、30歳という若さだけではなく、海外の建築を設計できるよろこびと、超一流の事務所でのプライドが、私を興奮させていたように記憶している。

オイルダラーのうなる中近東のプロジェクトでは国王や皇太子、大統領などの施設の設計が続き、後に独立した時、日本の顧客に大きなものしか設計しないと誤解され難儀したものだ。

今回のテーマの都庁舎だが、1986年に新宿に移転が決り、国内有数の建築事務所9社の指名コンペが行われ、私が丹下事務所の統括責任者としてデザインからマネジメントまで担当することになった。ところが、天下の丹下事務所でもなかなか良い案が出ない状態だった。ボリュームの大筋の方針は確定していたが、丹下先生もご自分の案ではまだまだと感じているのが私にも分かった。

コンペの締め切りが刻々と迫っていた2週間前、パリのノートルダム寺院の酷似案に決まった。私にはこの案では世間の大反対にあい落選となることは目に見えていた。全体が動き出した中で、一人異議を感じ別案に取り組む。

そんな悶々とした模索の最中、米国写真家著書の「日本文化」写真集に掲載された大阪の「吉本家の民家」の天井伏図の反転図が眼に止まった。これを見た瞬間「はっと」ひらめいた。「これだ!」。私の頭の中に都庁の完成バーチャルが出来上がっ

た瞬間だ。よい案が出ず悶々とした毎日は、秋の空のように一点の雲もなく晴れ上がった。

即、事務所の同僚2人と例の図録を基にイメージに沿って全体のファサードを作り上げ、あっという間に出来上がった建築模型を見て、自ら度肝を抜かれたのを思い出す。世界にないイメージのものだった。「さあ先生に連絡だ。」と言っているその時、丹下先生から私に電話が入り、「中村君、できましたか?」だ。「エッ、なんで先生が知っているのか。」と思ったものの、私はうわずった声で「全く異次元の建築ができそうです。」と応えた。そして「すぐ行きますから用意しておいてください。」との返事。私は興奮で手の震えが止まらなかった。冷静に。冷静に。と気持ちを静め、土曜の朝6時に来所した先生に、「なぜこのようなファサードになり、全体がどのようなコンセプトになっているか。」など私の考え述べ終わると、「ではこれで行きましょう」となり、コンペ締め切り間際すべてをキャンセルし新案にとってかわり再スタートとなった。

この後、審査の結果、めでたく丹下事務所案が採用となった。つまり私の案だ。その後実施設計に入り、本会議場、広場、ロビーなどなど全てのデザインが私の手描きの畳一畳ほどの大判の図面に描かれほとんど修正なく進められた。もちろん最終的には丹下先生がチェックされたのはいうまでもない。



コンペ案の計画の美しさやコンセプトが現実の建築に投影されているかの点では私には多くの疑問が残っている。しかし、この都庁舎が日本の歴史の中の有数の建築のひとつにはなると確信している。そして、私の建築家としての原点が心の底にあった自然の豊かな石神井高校周辺の武蔵野の風景にあることはいうまでもないし、そのイメージの中に同期との「絆」もあると確信している。

(編集:高13回Y.N)

／同窓生のそれから／

田中 あかね(高校31回)  
東京農工大学大学院農学研究院 教授

## 東京農工大獣医科で初の女性教授に



石神井時代は、レッド・ツェッペリンやローリング・ストーンズが大好きでした。どの曲も好きでした

が、一番好きだったのは「天国への階段」や「サティスファクション」だったかな。そんな訳で部活はあの噂に高い「軽音部」でした。私はボーカル担当で、ちょっと過激な女子バンドをやっていました。40歳の同期会での再会をきっかけに、同期の藤野遵、後藤美樹らとともに、J A M-T A K Oを結成してオリジナル曲中心にCDも5枚出しています。CDを作った動機は、藤野君がやっている肢体不自由児支援のための資金集めでした。これを機会に大勢の皆様のご支援を期待しています。



高校時代の私は文系で、得意な学科は英語、そして苦手な学科が数学という調子で、東京農工大の獣医学科受験の時は数学で苦勞したものです。獣医になるつもりで大学に入り獣医師免許を取得し、卒業後は臨床に無事従事していましたが、臨床獣医師の日々「なぜ? どうして?」と疑問を感じる事が多くなり、もっと生命の不思議を掘り下げたいと思い臨床獣医学博士コース、つまり研究コースに進みました。

そして2001年、博士課程修了し臨床獣医学免疫学を研究分野に選び、その研究の成果が認められ2012年、東京農工大初の女性獣医学教授に就任し現在に至っています。

現在の主たる研究課題は、イヌに多いがんに特異的に効果を発揮するクスリの開発です。特にイ

ヌやネコに多く発生する肥満細胞腫というがんの発生メカニズムを解明し、なるべく副作用の低い薬剤の開発につなげたいと研究に励んでいます。また動物での研究成果は人の医療の発展にも大変役立ちますので、医師との共同研究も実施しています。

今は週に1回 臨床医として外来診療、また週に1日は外科手術に従事しています。そのため、基礎研究で得た成果を臨床の現場に活かし、また実際の病気を目の当たりにして、様々な研究のヒントを得られる環境にあります。基礎研究と臨床現場の両方に接することのできる環境は大変貴重であるため、大変「やりがい」のある職場です。

女性の臨床医は男性とくらべて、動物の取り扱いが優しいといわれます。ただ、日本では残念ながらまだまだ女性獣医師が生涯をかけて仕事を続ける環境が整っておらず、出産や育児のために休職することも少なくありません。東京農工大獣医学科でも女性教員の数は全体の十数%にとどまっています。欧米では男女の比率が五分五分ですから、今後日本の獣医界は女性進出が大いに期待できる分野です。私は女子学生の育成や再教育にも力を注いでいます。

全国に16しかない獣医学科・獣医学部は、大変狭き難関です。獣医師資格を取得するためには、6年間の課程修了後に国家試験に合格しなければなりません。石神井の後輩諸君、特に女子学生の皆さんにはこういう職場があることを知っていただき、将来の選択肢のひとつとして目指していただけることを期待しています。



(取材：高13回 Y.N)

会員各位

東京都立石神井高等学校同総会  
会長 大久保利一

2013年度定期総会のご案内

2013年度の定期総会を下記により開催します。ご多用のところ恐縮ですが、万障繰り合わせてご出席くださるよう、ご案内申し上げます。  
なお、本総会終了後に例年通り簡素ながらも盛大な懇親会を行いますのでご参加くださるようお願いいたします。

記



日時 2013年8月24日（土）午後1時30分から  
場所 母校4階視聴覚室「黒菱ホール」  
議題 下記掲載

**2013年度定期総会 議案資料**

1. 開催日時：2013年8月24日土曜日13時
2. 開催場所：母校4階視聴覚室「黒菱ホール」

議 題

- 第1号議案 2012年度事業報告
- 第2号議案 2012年度収支報告
- 第3号議案 2013年度事業計画
- 第4号議案 2013年度収支予算

- 第5号議案 役員改選
- 第6号議案 規約改正
- 報告事項
- 1 教育支援基金 2 その他

**第1号議案 2012年度事業報告**

- 4月7日 母校入学式に顧問、会長、副会長列席（会長祝辞）
- 25日 役員会（きずな発行、総会、懇親会関係）
- 6月1日 役員会（きずな発行、総会、親睦会関係）
- 2日 母校体育祭視察
- 9日 幹事会（総会、懇親会の企画関係）
- 15日 先生、PTAの方々との懇親会（更なる協力体制を確認）
- 22日 役員会（きずなの編集関係）
- 25日 64期新幹事との懇親会
- 7月5日 役員会（きずな最終校正）
- 27日 「同窓会の輪」幹事会
- 8月7日 役員会（総会、親睦会最終打合せ）
- 25日 定期総会、懇親会：全議案を満場一致で承認。懇親会には約50名参加。石吹のOBと現役生20名による演奏も楽しんだ。
- 9月15日 母校文化祭に参加：16日も含め、黒菱山荘を中心にした白馬村を紹介。27期の新田晴彦氏の山荘や白馬の写真展も好評。石神井高校を受験させるきっかけの一つが黒菱山荘だったと話してくださった親

- 御さんがいたことが大変うれしかった。
- 10月6日 校歌祭参加（日比谷公会堂）：同窓生約40名と石吹OBと現役生徒20名が参加、終了後懇親会。
- 7日 「同窓会の輪」幹事会
- 23日 役員会（新会員へのしおり作成関係）
- 12月13日 役員会（幹事会開催、今年度決算関係）
- 《2013年》
- 1月23日 65期卒業生への同窓会加入説明会（母校視聴覚室）
- 2月8日 役員会（来期事業計画、予算関係）
- 3月9日 母校卒業式に顧問、会長、副会長が列席：会長が祝辞を述べ、卒業生全員にお祝いの紅白饅頭を贈呈。
- 21日 広報誌「きずな」編集会議（スケジュール、内容について）
- 3月31日 ラグビー部の第5回高校7人制ラグビー大会出場視察：神奈川、千葉、静岡、東京9校によるリーグ戦。雨模様の中、石神井高校はCブロック1位となった。

第2号議案 2012年度収支報告

2012年度(平成24年度)決算報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収入の部

	2012年度予算	2012年度実績	備 考
前期繰越金	10,320,715	10,362,133	
入 会 金	1,124,418	1,124,418	
年 会 費	4,500,000	3,715,745	
雑 収 入	100,000	46,064	
合 計	16,045,133	15,248,360	

支出の部

	2012年度予算	2012年度実績	備 考
総 会 費	150,000	118,562	母校で開催
本 部 費	700,000	805,465	
広 報 費	2,200,000	2,205,670	きずな作成費
発 送 費	1,720,000	1,710,073	きずな発送費
行 事 費	200,000	261,641	
山 荘 費	550,000	514,670	
新会員費	113,000	110,670	榮太楼饅頭
予 備 費	50,000	7,665	
小 計	5,683,000	5,735,016	
次期繰越金	10,362,133	9,513,344	
合 計	16,045,133	15,248,360	

上記の通り、2012年度会計収支を決算して報告いたします。

会計 上野俊彦

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

2013年6月14日

会計監査 栗山 隆

会計監査 広瀬由貴

平成24年度 黒菱山荘会計報告(参考)

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

【収入の部】	金額	備 考
助成金	500,000	同窓会より助成金
PTA助成金	0	
宿泊費	346,000	宿泊費
受取利息	22	預金利息
計	846,022	
【支出の部】	金額	備 考
交通費	149,380	乗車券、特急券、高速道路料、リフト代他
通信費	31,738	電話代、切手、はがき、郵送料
水道光熱費	134,249	水道代、プロパン代他
会議費	104,900	月例会議、総会懇親会 山寮協議会懇親会費
会費	5,000	山寮協議会年会費
修繕費	57,808	建屋修繕費
備品費	110,689	什器備品費、鍋釜等
雑費	89,969	ゴミ処理費、お土産、お見舞い、消耗品
借地料	150,000	借地料
山荘管理費	50,000	山荘管理費(対岳館)
修繕準備金	-37,711	黒菱山荘修繕準備金から補填 (平成25年度一般会計残金)
計	846,022	

※修繕準備金残高 ¥942,811-

第3号議案 2013年度事業計画

5月 9日 母校入学式に顧問、会長、副会長が列席  
(会長が祝辞)

14日 同窓会連絡協議会(同窓会の輪)

6月 1日 母校体育祭視察

14日 先生、P T A三者協議会の懇親会

27日 65期新幹事との懇親会

7月 1日 広報誌「きずな」発行

8月24日 2013年度定期総会、懇親会：会場は母校  
視聴覚室「黒菱ホール」。懇親会では、  
吹奏楽部OBと現役とのコラボ演奏会等

の企画を予定。

8月31日～9月1日 教師のための黒菱山荘ツアー

9月14日 母校文化祭に参加

10月 5日 校歌祭参加

同窓会連絡協議会(同窓会の輪)

21日 黒菱山稜協議会に会長、役員出席(今年、  
石神井が幹事校のため)

11月 66期卒業生への同窓会入会説明会  
《2014年》

3月 母校卒業式に顧問、会長、副会長列席

※この他、役員会、幹事会、ホームページ、きずな発行関係の会議は随時開催 ※日程は予定のため変更することがあります

第4号議案 2013年度収支予算

2013年度(平成25年度) 予算案

収入の部			支出の部		
	2013年度予算	備 考		2013年度予算	備 考
前期繰越金	9,513,344		総 会 費	120,000	母校開催
入 会 金	1,389,387	3月に入金済み	本 部 費	700,000	
年 会 費	4,300,000	寄付金を含む	広 報 費	2,200,000	
雑 収 入	50,000		発 送 費	1,770,000	
合 計	15,252,731		行 事 費	250,000	校歌祭、文化祭等
			山 荘 費	520,000	
			新会員費	120,000	
			予 備 費	50,000	
			小 計	5,730,000	
			次期繰越金	9,522,731	
			合 計	15,252,731	

第5号議案 役員改選

会 長	大久保 利一 (高17回)	留任	会計監査	栗山 隆 (高12回)	留任
副会長	勝見 鈴代 (高20回) 企画担当	留任	会計監査	広瀬 由貴 (高39回)	留任
副会長	久保内 祥郎 (高21回) 総務担当	留任	執行役員	石川 和寿 (高9回)	留任
副会長	板谷 方彦 (高27回) 広報担当	留任	執行役員	橋本 恒夫 (高20回)	留任
副会長	浦川 伸一 (高32回) 山荘担当	留任	執行役員	中津川 伸行 (高20回)	留任
会 計	上野 俊彦 (高17回)	留任	執行役員	泉水 裕二 (高33回)	留任
書 記	山下 章 (高19回)	留任	執行役員	中谷 祐二 (高34回)	留任
書 記	早川 映 (高23回)	新任			

第6号議案 規約改正

規約「第15条(幹事および幹事会)」を下記の通り改正します。

現行

通常会員は、卒業年次別に原則として2名の幹事を選任し、会長に届けるものとする。

幹事は、その卒業年次の同期会、クラス会等の開催に尽力する。

幹事は、幹事会を組織し、本会の運営に関する問題を審議するとともに、役員会へ出席し意見を述べる事が出来る。幹事会内規は別に定める。

改正案

(幹事)

通常会員は、卒業年次別に原則として2名の幹事を選任し、会長に届け出るものとする。

幹事は、その卒業年次の同期会、クラス会、ホームページ、メーリング等を通して本会活動の活性化に尽力する。

部活動のOB・OG会も幹事を選任することができ、その内容は上記に準ずる。

(幹事会)

幹事は、本会運営の支援ならびに世代間の交流・相互理解を目的として幹事会を組織する。

幹事会は、本会運営に関する問題を審議し役員会に対し提言を行うとともに、本会活動の活性化のための諸策の具体化を役員会と協調して行う。 幹事会内規は別に定める。

## 報告事項

## 1 教育支援基金運営状況および基金特別会計の収支について

## 2012年度教育支援基金事業報告

収入の部	
前年度からの繰越金	3,052,050 円
収入合計	3,052,050 円
支出の部	
グラウンド照明柱電球交換 (電球1,000W×7個)	306,600 円
イギリス留学支援(6名)	120,000 円
パソコン1台	100,000 円
ラグビー部支援 (第4回Y.C&A.C高校SEVENS参加費用)	80,000 円
ブリティッシュヒルズ語学研修補助	100,000 円
支出合計	706,600 円
<b>収支残高</b>	<b>2,345,450 円</b>

2013年3月31日までの支援金明細	
修学旅行の講師お礼	50,000 円
校庭防御ネット	420,000 円
ブリティッシュヒルズ講習補助	430,000 円
地球ステージ講演会補助	33,300 円
サテライト口座講習補助	750,000 円
部活支援 (水泳部、生物部、美術部、ラグビー部)	235,000 円
テント1張	232,470 円
イギリス留学支援	360,000 円
グラウンド照明柱電球交換	306,600 円
パソコン1台	100,000 円
カウンセラー派遣補助 (月1回2時間程、生徒・教員の相談を受ける)	35,000 円

上記支援基金会計収支を監査した結果、  
適正であることを認めます。

2013年6月18日 監査役 城 和裕  
監査役 佐藤 健

2013年3月31日現在の残高2,345,450円に関しましては、学校側と協議の上母校発展のため、大切に使用を決めて参りますとともに、2014年度の広報誌「きずな」にてご報告申し上げます。ご支援を頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

## ▼ラグビー部生徒からのお礼メッセージ▼

## 「7人制ラグビーに参加して」

この度はY C & A C 高校7人制ラグビー大会に参加させていただきとても勉強になりました。15人制とは異なる考え方やプレーがあり、それを個々で考えチームで話し合い実践してみるとということや、初めてやる7人制ラグビーにみんな新鮮さを感じ楽しんでラグビーをプレーしていたということなど、精神的にも技術的にも石神井高校ラグビー部にとっても良い経験になりました。

今回の大会で僕らの顧問をしてきていた鎌田

先生が引退してしまいました。優勝は出来なかったけど、この大会を通じて僕らが入学した時から今までの成長を見せることができたと思います。

最後に、この大会を主催して下さったY C & A Cの方々や参加費用を負担していただいた同窓会の方々など、僕たちの活動を支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。

都立石神井高校ラグビー部 江塚諒平

## 2 幹事長、副幹事長紹介 (敬称略)

幹事長 高尾 宏一 (高25回)

副幹事長 荒川 英彦 (高25回)

会員の世代間交流を積極的に図り、幹事会の活性化に役員とともに活躍していただくことになりました。会員の皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

以上

# 史上初！ 二週連続同期会開催！！

…… 高3回（昭和26年卒業）傘寿同期会 ……



これは、昨年11月13日に「あおしま青山店」で開催した3回生同期会の記念写真です。これを見たご本人たちの感想。「最後の晩餐のようだ」「老人ホームの集団脱走」「見る影もないね」「立派な顔をこれだけ集めると、まさに珍百景だな」などなど。

自分の姿を棚に上げてよく言うよ。……………

幹事独言

## 友は皆年を重ねて老いたれど 会えばたちまち芳春のころ 佐藤 健（高3回）

同期会の幹事として何より辛いのは、友人の訃報を知ることです。奥さんから「主人は昨年3月に亡くなりました」と聞かされると言葉を失います。幹事の経験のない人には、この気持ちはわからないでしょう。

昨年、傘寿同期会の幹事を引き受けたときに考えました。これが最後となるだろう。そうであるなら「ぜひ出席したいが、あいにくその日は都合が悪い」という人をなくしたい。そのためには2週連続で開催したらどうか。史上初の快挙としてインパクトがあるぞ。

その効果は予想を超えました。中には両方に出たいと言う人も現れて一時は、騒然となります。結果として、2回目の参加者は3人に留まりましたが、皆さんに喜ばれ、今度の同期会は面白そうだと感じてもらったことは確かです。

開催通知を受け取って、「出席」の返事をおきながら、その日を忘れてしまう人がいます。その予防策として、開催日の1週間前に出席回報者には再度の連絡を封書で送りました。わざわざ封書にしたのは、出席者の一覧表を入れるからで

す。これで、当日誰と会えるか楽しみが増すだろうと思いました。

席上でのネームプレートは必需品ですが、なるべく大きな文字で表示したい。これが後日、記念写真の氏名判別に役に立ちます。補助手段として、スナップ写真をたくさん撮っておくと後日大変助かることがわかります。

こんなことにこだわる理由は、記念写真に全員の名前を貼り付けると、皆さんに喜ばれるからです。お互い何十年ぶりに会うのですから名前と顔が一致しにくい。名前付きの写真は同期の絆を繋ぐ有力な手段になります。

ですから、この写真は欠席者にも送りました。欠席者の多くは病氣療養中の人です。こういう人も旧友との交流を願っているはず。写真の顔と名前を突き合わせれば、懐旧の情もわき元氣も出てくるだろうと思います。

これまで、幹事を3度やりましたが、記念撮影はすべてプロの写真家をお願いしております。良質な写真を残したい。これが、ひそかな私の自慢です。



# 1 回生同期会報告



幡谷 岩本 吉田 高味 伊藤 蓮見  
平出 井口 飯塚(仁) 高島 飯塚(啓) 北爪 中島  
飯倉 村瀬 三木 真家 岡本 山下 房園

私たちは戦時中に旧制中学に入学し戦後の新学制移行では旧制中学五年で卒業の人もおりましたが、高校三年の卒業まで石神井は六年間の母校です。最近公立でも中高一貫校がありますが私たちの六年間は戦争・敗戦・戦後に跨る時期で軍事教練、工場動員被爆、母校の被爆、疎開、戦後の窮乏など混沌と波乱の少年期でした。それだけにまた絆も強く80歳を超えた今も同期会を続けています。戦後の復興、国際競争の中で戦士として猛烈に汗を流した時期は忙しく不定期な同期会でしたが、2000年70歳を機に入学ベースから入念に調べ担任・同期生の消息を探り「ミレニアム古稀同期会」と銘打って同期会を再開しました。戦後の混乱で入学250名中160名の住所と20名余の死亡が判明しましたが、50名を越す出席があり新名簿と寄せ書き集も発行し盛会でした。以降「幹事」を設けず

平成24年10月13日 於あおしま〔石神井倶楽部〕  
真家俊雄(高1回)

お寺のように「世話人」と称して5名で企画運営を続けております。

その後入学・中途入退・卒業全ての仲間に声をかけ一年半毎の定期開催ですが80歳の「傘寿同期会」を境に逝去判明者も60名を越え健康上出席出来ない人の続出で開催も危ぶまれるようになりました。

そこで世話人一同相談し出席が20名を切ったら往復ハガキで案内する組織的な同期会は打切りにしようかと思いつきながら今回蓋を開けたところ出席はピッタリ20名、出席者の意向を聞いたところ誰も老後の問題(病気や老々介護伴侶の死など)を体験しながらも楽しみにして出て来ると言う。思えば我々世話人も全身体験者、先が短いのでむしろ1年毎にやろうと言うことになり次回25年10月19日の開催を約し「芳春にいで魁けん白梅の・・・」を歌って散会しました。

歯科で「八まる二まる」と言う80歳で自分の歯20本という健康指標がありますが、私達一回生は80歳で出席20名の「八まる二まる」をクリアし石神井健児未だ健在です。後輩の皆さんも同期生との「きずな」を大切にし有意義な老後に備えて下さい。

(世話人：飯倉豊司・岡本磐男・村瀬義久・吉田卓・真家俊雄)

事務局 真家 〒202-0015

西東京市保谷町3-4-18 tel: 042-461-1117

Email: t-maie@h2.dion.ne.jp

## バレーボール部 オールドボーイ&ガールが集う



バレーボール部OB・OGの有志による懇親会が2013年3月23日の昼下がり、渋谷・青学会館I V Yホールで開催され、6回(昭和29年卒)から20回(昭和43年卒)までの66名が出席して大いに盛り上がりました。

ウン十年ぶりの集まりは、磯田忠宏さん(18回・昭和41年卒)の司会でスタート。本会代表幹事の

奥本浩平さん(11回・昭和34年卒)、年長OB・OGを代表して中村卓爾さん(7回・30年卒)、植村(旧姓清水)郁子さんのあいさつのもと、深野輝明さん(6回・昭和29年卒)の「乾杯!」を合図にだれもが高校生にタイムスリップしました。「おい、元気か」「いつまでも変わらないね」会場のあちこちでは同期同士や先輩と後輩の輪が幾つも出来上がり、昔話に花を咲かせ、笑顔があふれていました。ひげダンスの余興などもあって、あっという間の2時間半。皆で腕を組み校舎やグラウンドを思い出しながら「高校三年生」を大合唱し、田崎廣さん(20回・昭和43年卒)による中締めで、別れを惜しみながら再会を期して散会しました。  
(文責・19回 奥本智行)

# 新聞部が久しぶりにOB会開催



3月23日、青山の「あおしま」で新聞部OB会が開催されました。高校13回生から19回生まで17名が出席し、旧交を温めました。新聞部のOB会としては数十年來の開催でした。アトラクション

として高校15回生の藤井旭君にアイリッシュホイスルの演奏をしていただき、芸術的な雰囲気も堪能しました。以下、出席者。高校13回／野中雄介、畑口昌夫、吉岡(石崎)順、小松(阿久津)順子。高校14回／杉本幹男。高校15回／藤井 旭。高校16回／小沢誠一、小池正三、菅田 浩、谷 憲郎、若井(額田)治子。高校17回／柿沼健児、峯岸誠。高校18回／有川幸、鵜飼明弘、宮本誠治、藤沢(中沢)初江。高校19回／江隈和男、外崎(藤野)純子。



## 34期同期会を開催しました

2013年1月20日(日)に帝国ホテル「孔雀南の間」にて開催しました。

参加人数は、2次会も含めて130名。

浅井先生、保母先生をお迎えして、賑やかに楽しいひと時を過ごしました。 児玉健二 (34回)



## 「高校19回同期会」開催案内

高校入学50周年を迎え、下記の通り、同期会(お久しぶり会)を開催いたします。

- 日時 平成25年11月9日(土) 17:00~19:30
- 場所 新宿ワシントンホテル
- 会費 10,000円
- お世話になった先生をご招待いたします。
- 参加申し込みの案内は、8月末に連絡致します。

19回同期会 会長 榎本宗一  
連絡係 末広 彰

## 第3回生(昭和26年卒業)に告ぐ

毎年11月の第2火曜日は「3回生の日」です。

今年は11月12日(火)に下記へ集合しましょう。

- 場所 「あおしま青山店」 ☎03-3403-3461
- 時刻 午後1時30分から
- 会費 5,000円

ご質問は世話人の佐藤まで ☎042-422-8603

## バスケットボール部「第3回 石神井・大泉 合同OB・OG会/交流戦」のお知らせ

2013年8月30日(金) 13:00~21:00 代々木第二体育館にて行います。

詳しくは、同窓会HPまたはバスケットボール部OB・OG会掲示板をご覧ください。



## 「母さん助けて詐欺」と思われる電話にご注意ください!

過去の卒業生名簿等を悪用したと思われる詐欺が数年前から複数発生しており、被害総額は1,200万円を越えております。

卒業生の実名を名乗り、「携帯を変えた」といった電話の後に「借金返済のため現金を振込んで」と連絡が来る手口や、警察や弁護士を名乗り「息子さんが会社に迷惑を掛けた」と偽って現金、通帳、カードを受け取る手口など。

こうした電話があった場合、必ず本人(元の電話)に確認すると同時に、必ず110番通報してください。

## 東京校歌祭に参加しましょう!!

日 時：2013年10月5日土曜日午後1時開演  
 会 場：日比谷公会堂  
 集 合：15時に正面の階段を上った受付  
 石神井の出演時刻は、16時20分頃を予定しています。  
 石吹OB、現役生徒の伴奏とともに旧十四中校歌と現在の校歌を熱唱しましょう!!  
 同期の仲間、ご家族を誘って参加してください。

終了後、懇親会を開催します。  
 懇親会会場は、石神井倶楽部(レストラン「あおしま」内青山ビルB1)  
 TEL 03 - 3403 - 3461  
 地下鉄青山一丁目下車、0番出口から青山ビルの地下に入  
 てすぐ右側のお店です。  
 楽しいひと時をご一緒にしましょう!!

### 事務局便り

#### 会費納入と寄付金のお願い

会費は、年2,000円です。何年も払うのを忘れていたから、払うのが大変だ!!  
 いえいえ、遑って払う必要はありません。今年からで、大丈夫です。  
 ご好意で、2年、3年と遑って・・・は大歓迎です。  
 昨年より、寄付金の振込用紙も同封しています。  
 会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

#### 会員情報、住所変更、同窓会への問い合わせ先

ウェブきずな <http://www.shakujii-club.gr.jp>  
 東京都立石神井高校事務局  
 〒164-0002  
 中野区上高田1-14-7(石神井倶楽部)  
 Tel&Fax 03-3319-1124  
 ※ウェブきずなからの問い合わせが早くて便利です。

#### 同期会の開催を応援します。

葉書、封書での案内用住所シールは、年に1回なら同窓会で費用を負担して幹事の方に送りますのでご連絡ください。又、会場や費用やり方など、何でも相談してください。力になります。

#### 同窓会活動参加者募集

年齢やジャンルを超えた出会いがあります。  
 同じ学び舎で学生時代を送ったというきずなを大切に、次の世代へと繋いでいきましょう!  
 皆さんの参加をお待ちしています。  
 問い合わせは、  
 副会長 勝見 鈴代(高20回)  
 090-2307-7710  
 suzuyo@vin-mousseux.com まで!!



#### 同窓会顧問 林 弘氏(中2回)ご逝去

同窓会顧問の林 弘氏(中2回)が、去る5月3日享年84歳で逝去されました。  
 林顧問は、平成14年から18年まで会長を務められ、数々の改革に取り組み、後輩の育成にも尽力されました。また、黒菱山荘の支援基金を立ち上げ、山荘の修繕に取り組み、山荘は現在も多くの皆さんに愛用されています。通夜、告別式には、会長、副会長、校長先生、役員が多数参列しました、心よりご冥福をお祈りします。合掌。

## 25年度(2013年度) 母校教職員の人事異動

### 転出

お世話になった先生



職名・教科	氏名	転出先等
国語科	飯塚 智子	葛飾商業高校
国語科(非常勤)	鈴木 幸夫	調布南高校
地歴科	堀越 高行	上野高校
公民科	西沢 幸子	北園高校
数学科	梶田 真里	小石川中等教育学校
数学科	松村 宏一	武蔵丘高校(非常勤)
保健体育科	鎌田 重行	退職
情報科	山田 邦吉	飛鳥高校
行政職	氏名	転出先等
企画室	多田 緑	教育長指導部管理課

### 転入

新しくいらした先生



職名・教科	氏名	前任校等
国語科	佐藤 治美	千早高校
国語科(非常勤)	大沢 達郎	大山高校
地歴科	森 一広	葛西工業高校
公民科	青野 弘一	足立高校
数学科	村山 仁	新規採用
数学科	松井 寛	武蔵野北高校
保健体育科	野口 友輔	大山高校(定時制)
情報科	小松 一智	東村山西高校
行政職	氏名	前任校等
企画室	元澤 祐也	水元特別支援学校
	金子とも子	杉並工業高校

# 母校近況

詳しくは石神井高校ホームページをご覧ください。  
<http://www.shakujii-h.metro.tokyo.jp/zen/index.htm>



## 平成24年度 65期卒業生 進路決定状況

卒業生	四年制大学	短期大学	専門学校	公務員	就職	その他
男子 147名	103	2	13	1	0	28
女子 132名	89	7	22	0	1	13
計 279名	192	9	35	1	1	41
平成23年度 232名	150	10	35	2	1	34
平成22年度 235名	139	13	40	0	5	38
平成21年度 233名	115	12	57	1	2	46
平成20年度 229名	139	9	46	0	2	33

## 平成24年度 四年制大学 合格一覧

国公立大学等				大学名			現役	浪人	合計	大学名			現役	浪人	合計	大学名			現役	浪人	合計		
学校名	現役	浪人	合計	駒沢大学	10		10	帝京大学	26		26	日本女子体育大学	1		1	帝京科学大学	2		2	日本獣医生命科学大学	2		2
首都大学東京	1	0	1	産業能率大学	2		2	帝京平成大学	7		7	日本保健医療大学	1		1	帝京科学大学	2		2	日本獣医生命科学大学	2		2
埼玉大学	1	0	1	実践女子大学	2	1	3	帝京平成大学	7		7	二松学舎大学	1		1	帝京平成大学	7		7	二松学舎大学	1		1
鹿児島大学	1	0	1	芝浦工業大学	3		3	東海大学	2		2	文化学園大学	1		1	東海大学	2		2	文化学園大学	1		1
国公立大学合計	3	0	3	十文字女子学園大学	2		2	東京家政学院大学	2		2	文教大学	3		3	東京家政学院大学	2		2	文教大学	3		3
私立大学				大学名			現役	浪人	合計	大学名			現役	浪人	合計	大学名			現役	浪人	合計		
青山学院大学	3		3	白百合女子大学	1		1	東京工科大学	7		7	文京学院大学	4		4	白百合女子大学	1		1	東京工科大学	7		7
旭川大学	1		1	城西国際大学	1		1	東京工芸大学	3		3	法政大学	11	1	12	城西国際大学	1		1	東京工芸大学	3		3
亜細亜大学	24		24	城西大学	1		1	東京国際大学	3		3	武蔵大学	4	2	6	城西大学	1		1	東京国際大学	3		3
跡見学園女子大学	1		1	駿河台大学	2		2	東京医療保健大学	1		1	武蔵野大学	5		5	駿河台大学	2		2	東京医療保健大学	1		1
江戸川大学	1		1	成蹊大学	8	1	9	東京未来大学	1		1	武蔵野美術大学	3		3	成蹊大学	8	1	9	東京未来大学	1		1
桜美林大学	1		1	成城大学	2		2	東京成徳大学	5		5	明治大学	2		2	成城大学	2		2	東京成徳大学	5		5
大妻女子大学	8	2	10	専修大学	5	1	6	東京女子体育大学	4		4	明治学院大学	2		2	専修大学	5	1	6	東京女子体育大学	4		4
学習院大学	2		2	聖心女子大学		1	1	東京造形大学	2		2	明治薬科大学	1		1	聖心女子大学		1	1	東京造形大学	2		2
神田外語大学	3		3	創価大学	1		1	東京電機大学	4		4	明星大学	12		12	創価大学	1		1	東京電機大学	4		4
北里大学	1	1	2	大正大学	4		4	東京都市大学	4		4	目白大学	5		5	大正大学	4		4	東京都市大学	4		4
杏林大学	9		9	大東文化大学	5		5	東京農業大学	8		8	立教大学	2	1	3	大東文化大学	5		5	東京農業大学	8		8
慶應義塾大学	1	1	2	高千穂大学	2		2	東京理科大学	3		3	立正大学	2		2	高千穂大学	2		2	東京理科大学	3		3
恵泉女子学園大学	2		2	拓殖大学	10		10	東邦大学	1		1	立命館大学	1		1	拓殖大学	10		10	東邦大学	1		1
工学院大学	4		4	玉川大学	5		5	独協大学	1		1	私立大学合計	371	18	389	玉川大学	5		5	独協大学	1		1
國學院大学	7	1	8	千葉工業大学	1		1	日本大学	19	1	20	平成24年度計	374	18	392	千葉工業大学	1		1	日本大学	19	1	20
国士館大学	12		12	中央大学	4	1	5	日本体育大学	5		5	平成23年度計	298	32	330	中央大学	4	1	5	日本体育大学	5		5
												平成22年度計	247	36	283								
												平成21年度計	174	37	211								

## 平成25年4月現在 部活動状況(部員数)

部活名	1年		2年		3年		合計
	男	女	男	女	男	女	
サッカー	28	1	35	4	35	2	105
男子バスケットボール	30	3	16	2	15	1	67
女子バスケットボール	0	12	0	8	0	11	31
ラグビー	6	0	6	0	6	3	21
バドミントン	8	4	1	0	5	1	19
野球	13	1	8	1	8	1	32
男子テニス	11	0	8	0	8	0	27
女子テニス	0	10	0	9	0	0	19
男子バレーボール	0	0	0	0	0	0	0
女子バレーボール	0	4	0	0	0	4	8
男子ハンドボール	12	4	17	1	6	2	42
女子ハンドボール	0	7	0	8	0	5	20
ソフトボール	0	7	0	2	0	7	16
スキー	0	0	0	0	1	0	1
水泳	8	3	13	1	6	1	32
陸上競技	5	6	5	3	5	2	26
剣道	2	0	1	0	1	1	5

部活名	1年		2年		3年		合計
	男	女	男	女	男	女	
軽音楽	9	13	9	19	1	9	60
放送	0	0	0	0	0	0	0
ダンス	1	25	0	36	0	26	88
ファッション	0	6	0	15	0	9	30
吹奏楽	1	7	0	6	1	6	21
美術	1	2	1	2	0	2	8
演劇	0	0	1	0	1	1	3
茶道	0	7	0	2	1	7	17
写真	2	1	0	2	0	0	5
生物	0	0	5	0	1	0	6
漫画研究	1	5	0	4	3	4	17
英語同好会	0	3	0	3	0	2	8
合唱	1	2	1	5	0	0	9
物理化学	3	0	1	0	16	2	22
柔道	0	0	4	0	0	0	4
料理同好会	0	5	0	2	0	5	12



本年度入学生から制服の着用が義務付けられました。

## 編集後記

今回のきずなの編集を同期のTH君が引き受けてくれました。いつも印刷をお願いし大変な時間と労力を使っている大先輩のKI氏との息の合ったコンビネーションで本号が完成しました。これからもより充実した「きずな」にしたいと思います。新しい幹事長と副幹事長が決まり、尚いっそう会員の皆様とともに歩む同窓会作りに頑張ります。(S.K)

## 『きずな』第62号

発行人：大久保利一 編集人：勝見鈴代  
 発行所：東京都立石神井高等学校同窓会  
 事務局石神井倶楽部  
 〒164-0002  
 中野区上高田1-14-7 Tel.03-3319-1121  
 印刷所：株式会社 文明社  
 ウェブサイト：[www.shakujii-club.gr.jp](http://www.shakujii-club.gr.jp)